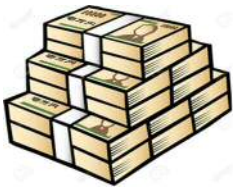


税理士のひとりごと

税理士の佐藤です。

昨年末、ドジャースと契約した大谷翔平選手の10年7億ドル(約1,000億円)、山本由伸選手の12年3億2500万ドル(約462億円)と日本人選手にとっては大盤振る舞いの2023年の米国野球市場でした。



一方、日本経済新聞のアンケート(経営者100名)によると昨年末時点の日本国内の景気認識は72.5%3ヶ月前より拡大していると回答しています。我々中小企業の経営者には実感がないような気もしますが・・・実際、内閣府の同時期の調査(令和5年10~12月)でも、大

企業の業績は上昇、中小企業は下降とのデータが示されています。

大企業中心の経済界では賃上げが公然と語られますが、中小企業は業績が改善しない中、賃上げ等の経費の増加に耐えなければなりません。

肌感覚では、我々中小企業においては観光業は業績が急上昇、建設業は急降下との印象で、インバウンド等の外的要因で市場が拡大する業種、少子高齢化にともなう内需低下の影響をまろにうける業種など業績格差が広がりそうです。

何もしないと、売上の増加より経費の増加割合が上回りそうな2024年がスタートしました・・・。

「時代を生き残った古典(格言)」

経営者のみならず、人にとっても、会社にとっても時間(期間)は、過去、現在、未来と平等です。過去に業績が良くても倒産した会社が無数にあり、今業績が良くても未来は保証されません・・・。

冒頭に書いたように、外部環境、内部環境の急速に変化するため経営者は現状(今)に留まる事は許されません。努力(研究、勉強)をし続けなければすぐ市場から淘汰されるとの危機感を持つ事は大切です。

一方、実体験(成功)に基づく経営者の書いた経営指南書は無数にありますが、松下幸之助氏のように重版が繰り返されるような名著はそんなに多くはありません。

なぜなら、スナップショットの成功を記念した著者にとってのひと時の夢物語の可能性もあります。なぜなら時代はすぐ流れてしまいますから・・・。



しかしながら長く読み継がれる名著には会社経営にとって大切な本質(答え)が隠されているのかも知れません。特に売れば勝ちといったタイトル詐欺には気をつけてください。

そう考えると・・・町の本屋さん(最新書)より、図書館やリサイクル店、Amazon等で古から読み続けられている名著を探す事がお勧めです。

「経営者のライセンス」

世界最初の会社は 1553 年にイギリスで設立され全世界に広まりました。今では大学生でも簡単に会社を設立出来、経営者となれる時代です。



しかし、経営者となるべき「自覚も資力、努力、準備」もなく起業し、「社会の公器(松下幸之助の会社感)」となれず「社会に大きな迷惑(倒産)」をかけた会社は 2022 年に約 6800 件(帝国 DB)もあります。

懇意の経営学者(国立大学教授)は経営者になるためにライセンス(免許)いらないが、成功している経営者は何らかの経営学を学んでいるとおっしゃっていました。

商売は「子供だまし」では長続きしません。最近、沢山もの種類の中からこれぞと思う美味しい味噌を発見し「そこがミソ」の意味を噛みしめて(食べ)毎日実感しています。長く受け継がれる言葉にはそれなりの意味があると感心しています…。ことわざ、格言を調べるのもお勧めです。

「遠くのもの避けよ」

昨年 4 月に全国的にフランチャイズ(FC)業界最速で店舗が拡大したとの評判の「とろり

天使のわらび〇ち」が手稲駅前周辺に開業しました。たしかに、初日の開店時(10 時)には 10 数名の列が出来ておりましたが、以後店舗に買い物客を見るのもまれなほど閑散としていました。結局、2024 年を迎える事なく最速で閉店となりました。

表題の投資格言は「投資のヒントは身の回りにいっぱい転がっている。それに気づかないで、自分の不得手な知らないものを選ぶテはない」、もう一つ別の意味もあり「株式市場にはいろいろな情報(材料)がもたらされるが、はるか海外でどうこうという種類の材料も多い。仮にそれがデマであったとしても“遠い”ところでは確かめるすべもない。不確実なものは避けるのも一手だ」と教えているのです。

一般的に FC はその事業に関しての素人が「ノウハウと商品を提供されて」始める場合が多く、タピオカや高級食パン同様に一過性のブームの影響を大きく受けます。どんなに頑張っても自分自身では外的要因を変える事が出来ません。

ビジネスであれ、勉強であれ、スポーツであれ、基礎(土台)が大切です。2024 年は心新たに学びの一年にして見ては如何でしょうか…。

今月のことば

税金を国民から取るのは当然と考えるばかりか、増税することに傷みを感じない為政者は失格である

(松下幸之助)

編集後記：

2024 年より投資家(若者)から現政権最大の功績とも呼ばれる新 NISA がスタートします。キャピタル(利益)を狙うのか、インカム(分配金)を狙うのかは人それぞれです。若者は未来の利益、おじさんは目の前の分配金(お小遣い)といった感じでしょうか…。個別株(1社銘柄)を避け、ETF(数十社銘柄以上のパック商品)や投資信託に投資するのがお勧めです。怪しいユーチューバーさんの広告料欲しさの「真実っぽいデマ」には特にお気をつけください(寿)。